

公益財団法人介護労働安定センター

# 介護労働講習（実務者研修含む）

（ 募集要項 ）



公益財団法人 介護労働安定センター沖縄支部

〒900-0016 沖縄県那覇市前島 3-25-5 とまりんアネックスビル1階  
TEL. (098) 869-5617 FAX. (098) 869-5618

## 訓練概要

公益財団法人介護労働安定センター（以下、「センター」という。）が行う介護労働講習（実務者研修を含む）（以下、「講習」という。）の概要について説明します。

### 1. 目的

講習は、介護関係業務に従事する労働者又は介護労働者になろうとする者を対象とした職業教育として、対人理解や対人援助の基本的な視点と理念、専門的な職業人として職務に当たる上で必要となる知識・技術の習得に加え、応用的に知識・技能が活用できるよう実践に即した技術力を習得させることを目標として、介護に携わる人材育成を行うことを目的とする。

### 2. 講習名称

公益財団法人介護労働安定センター沖縄支部 介護労働講習（実務者研修含む） 通学

### 3. 講習定員 42名

### 4. 講習期間

期間：令和7年6月17日（火）～令和7年11月25日（火）【内105日間】

時間：午前10時00分～午後4時30分（講習内容により多少の変動あり）

### 5. 講習カリキュラム

講習を修了するために履修しなければならないカリキュラムは、別添1「研修カリキュラム」のとおりとする。

### 6. 講習会場

主会場：泊ふ頭旅客ターミナルビル地下1階会議室

（那覇市前島3-25-1）

泊ふ頭旅客ターミナルビル地下1階

演習会場：（生活支援技術Ⅱ）沖縄福祉保育専門学校（予定）

### 7. 開講式

日時：令和7年6月17日（火）午前10時00分

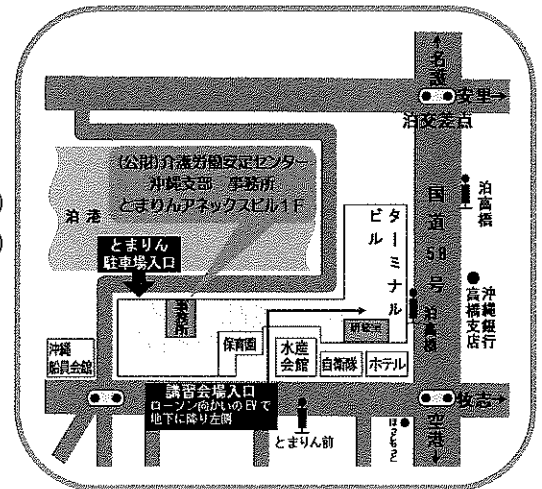
場所：泊ふ頭旅客ターミナルビル地下1階会議室

### 8. 講習内容

講習科目：実務者研修450時間、医療的ケア（演習）21時間、実践講習65時間、実習30時間、その他（就職支援等）55時間（※一部オンライン設定科目有り）

- ※1 インターネットに接続できる通信端末として、パソコン、タブレット、スマートフォンが必要です。（パソコン：Windows/Mac/Linux/Unix/Solaris モバイル端末：Android/iOS）
- ※2 出欠を確認し、同時双方向型の形式をとるため、Webカメラ、ヘッドセット又はイヤホンマイクが必要です。（ただし、カメラやマイクが通信端末に内蔵されている場合は不要）
- ※3 「Cisco Webex Meetings」のシステムを使用します。アプリをインストールして、接続できることをご確認ください。
- ※4 データ通信料（受講者自己負担）が発生します。受講が長時間となりますので、制限のない通信回線での受講をおすすめします。使用データ量に制限がある場合、通信速度の制限や予期せぬ高額な通信料金を請求される場合がありますので、ご注意ください。
- ※5 受講にあたって事前テストを行い、接続等の可否について確認します（当講習合格者でオンライン受講希望者のみ）。接続テスト日時は別途お知らせします。

使用教材：「介護職員等実務者研修テキスト（450時間研修）」中央法規出版株式会社 発行



## 9. 提出資料

実習に当たり、受講者は、センターが指定する期日までに、誓約書（個人情報保護を誓約するための誓約書）及び健康診断書等を提出しなければならない。

## 10. 修了評価

各カリキュラムを履修した者を対象とし、知識・技術等の習得度評価のため修了評価（筆記試験・実技試験）を行う。（やむを得ない事情によってカリキュラムの一部を受講しなかった場合は、補講修了後に修了評価を実施する。）

### (1) 方法

ア 筆記試験、実技試験及び通信レポート課題の結果を主とし、スクーリング科目については出席状況、通信科目については通信レポート課題の提出状況についても評価対象に含める。

イ 修了評価の結果、評価基準に達しなかったものについては、当該科目の修了評価担当者が、得点の内容等から知識・技術の習得の程度を判断し、必要に応じて再指導及び補講を実施し、再評価を行う。

### (2) 評価基準

評価基準は、次のとおり理解度の高い順にA・B・C・Dの4区分で評価し、C以上の受講者が評価基準を満たしたものと認定する。

#### 認定基準

・A＝80点以上・B＝79～70点・C＝69～60点・D＝59点以下（Dは不合格扱い）の4段階で行い、C（6割）以上が評価基準を満たしたものと修了認定する。ただし、D判定の不合格者については、必要に応じて再指導・補講を実施し、再評価を行う。

その他、修了評価の実施方法については、別途、実務者研修課程修了評価規定に定める。

## 11. 修了の認定及び証明書の交付

開講期間内に研修に定められている所定のカリキュラム（別添1）全てにおいて、課程修了認定を受け、当センターが修了と認めた者とする。

修了を認めた者に対し、研修修了証を交付する。

## 12. 講習欠席者の取扱い

受講者がやむを得ず講習（スクーリング）を欠席する場合は、「欠席届」を提出することとし、受講しなかったカリキュラム（時間）については、未履修とする。

## 13. 補講

上記「12. 講習欠席者の取扱い」によりカリキュラム（時間）が未履修となった場合であっても原則として、補講は設定しない。ただし、欠席理由について、センターがやむを得ない事情があると認め、かつ、講習期間内で実施可能な場合は、講習（スクーリング）時間数の概ね1割を上限として、補講を設定することができる。補講を実施するにあたり費用が発生する場合は、原則として受講者の負担とする。

なお、「やむを得ない事情」とは、社会通念上の次の事由をいうものとする。

- (1) 病気、怪我（証明できる書類の提出を求めるものとする。）
- (2) 天災地変、台風
- (3) 交通機関等のストライキ
- (4) その他、真にやむを得ない事由としてセンターが認めるもの

## 14. 保険加入

受講者は、講習中の傷害事故及び賠償事故に備えるため、当センターが指定する「介護労働講習等損害（傷害・賠償責任）保険」に加入することとする。受講者は講習日数分の保険料を支払期限までに後日発行する払込票により払込むこととする。

## 応募手続き

### 1. 受講対象者

介護分野での就職を希望する雇用保険受給資格者（雇用保険法第15条第1項）及び特例受給資格者（雇用保険法第39条第2項）であり、全日程を欠席なく受講できる方。

### 2. 定員 42名

### 3. 募集期間 令和7年6月2日（月）～令和7年6月10日（火）

### 4. 応募方法

受講を希望する者は、所定の「入所願書」に必要事項を記入し、居住地を管轄する公共職業安定所に、定められた期間内に応募する。

### 5. 選考日時

作文・面接：令和7年6月11日（水）

※作文のテーマは、「介護の仕事をめざす理由」（400字程度・試験時間40分）です。試験時は、筆記用具のみ使用可能です。

### 6. 合格発表

発表日：令和7年6月13日（金）郵送またはメールにて通知

※郵送の場合は発表日に結果通知を投函

### 7. 講習費用

①受講料：受講料は無料。

②テキスト代：12,650円（税込）

③保険料：3,150円（内訳：105日×30円）

④その他：講習期間中、健康診断料等経費（5,000円～8,000円程度）がかかります。

### 8. 支払い方法

受講者は上記②テキスト代及び③保険料を後日発行する払込票により払込むこととする。

なお、振込手数料は受講者負担とする。また、お支払いいただいたテキスト代及び保険料については、開講後の返還はしません。

### 9. その他

①講義で使用する物として、各自で準備する物品（エプロン・タオル等）があります。

②当センター専用駐車場はありませんので、公共交通機関のご利用をお勧めします。

自動車やバイク等を利用する方は、各自で駐車場等の確保が必要となります。

③これから雇用保険手続きをされる方は、令和7年6月10日（火）までに済ませてください。

## 実務者研修(450時間)

科目の細目	学習内容
1. 人間の尊厳と自立 (5h スクーリング)	
第1巻「人間と社会」(5h) 第1章 人間の尊厳と自立 第1節 人間の多面的な理解と尊厳  第2節 自立・自律の支援  第3節 人権と尊厳	<p>人間を理解し、人権と人間の尊厳について、その理念と理念の確立された歴史的経緯を学ぶ。さらにそれらを踏まえて、人権や尊厳に関する諸規定について学ぶ。</p> <p>介護における自立について、自立の意味、自立支援の意義等を理解する。生活意欲を高めるための支援について学び、自立した生活を支えるための援助の視点について整理する。</p> <p>介護における権利擁護と人権尊重、一人の人間としての利用者の権利、生活者としての利用者の権利について理解し、どのような場合に人権が侵害されるのかを確認する。権利侵害の生じる背景をとらえ、権利擁護の視点を整理し、介護職として権利擁護の姿勢を貫く意識を持つ。「尊厳のある生活」「利用者を理解する」「自己決定を尊重する」等の言葉の意味を理解する。介護実践にかかわる諸制度から、尊厳を無視した介護の事例を通して、介護における尊厳保持の実践について学ぶ。</p>
2. 社会の理解Ⅰ (5h スクーリング)	
第1巻「人間と社会」(5h) 第2章 介護保険制度の理解 第1節 介護保険制度創設の背景と目的  第2節 介護保険制度の基礎的理解  第3節 介護保険制度における専門職の役割	<p>高齢化、要支援要介護高齢者の増加、家族介護における多様な問題を含めた介護保険制度創設の背景について理解し、介護保険制度創設までの制度上の流れを学ぶ。介護保険制度の理念と目的、体系について学ぶ。</p> <p>介護保険制度の概要、保険者・被保険者、保険給付の対象者、保険給付までの流れ、役割、保険給付の種類と内容、地域支援事業、国・都道府県・市町村の役割、その他の組織の役割、介護保険の財政等について学ぶ。</p> <p>介護職をはじめとした専門職の役割を整理する。</p>
3. 社会の理解Ⅱ (30h 通信)	
第1巻「人間と社会」(30h) 第3章 社会のしくみの理解 第1節 社会と生活のしくみ  第2節 地域共生社会の実現に向けた制度や施策  第3節 社会保障制度  第4節 障害者総合支援制度  第5節 介護実践にかかわる諸制度	<p>家庭生活の基本機能である家庭・家族・世帯といった言葉の意味をそれぞれ理解し、家族の構造や形態、変容や多様化についてまとめる。            地域、地域社会の問題点や課題について学ぶ。            集団と組織の概念と、集団と組織における人間関係と役割について学ぶ。            ライフスタイルの変化について学ぶ。</p> <p>地域共生社会、地域包括ケアシステムの社会的背景や理念と、その実現に向けた取組について学ぶ。</p> <p>社会保障の役割と意義、目的と機能、範囲と対象、我が国の社会保障制度の体系について学ぶ。            年金保険、医療保険、後期高齢者医療制度、雇用保険、労働者災害補償保険、社会扶助、公的扶助、社会手当、社会福祉とそれに関する法律について学ぶ。</p> <p>障害者自立支援法から障害者総合支援法制定までの流れ、サービスの種類と内容、サービス利用の流れについて学ぶ。            自立支援給付と利用者負担について学ぶ。            障害者自立支援制度における事業者と施設、組織・団体の機能と役割とライフサイクルからみた支援組織について整理して学ぶ。</p> <p>サービスの利用にかかわる諸制度、虐待防止の諸制度、人々の権利を擁護するその他の諸制度、保健医療にかかわる諸制度、医療にかかわる諸制度、福祉資金の諸制度、住生活を支援する諸制度などについて学ぶ。</p>

4. 介護の基本Ⅰ（10h スクーリング）	
第2巻「介護Ⅰ—介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術—」（10h） 第1章 介護福祉士と介護の考え方 第1節 介護福祉士役割と機能  第2節 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開  第3節 介護福祉士の倫理	介護福祉士を取り巻く状況、社会福祉士及び介護福祉士法の概要や諸規定等を整理し理解する。実務者研修の意義と目標等について理解する。  利用者に合わせた生活支援、自立に向けた支援、自立に向けたICFの考え方等と、介護職として提供すべき介護サービスや支援について整理し理解する。介護の専門性について理解する。チームケアの重要性を踏まえ、根拠に基づく介護を理解する。  介護福祉士としての倫理の必要性について理解する。 日本介護福祉士会倫理綱領作成の経緯、内容等について学ぶ。
5. 介護の基本Ⅱ（20h スクーリング）	
第2巻「介護Ⅰ—介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術—」（20h） 第2章 介護福祉士による介護実践 第1節 介護を必要とする人の生活の理解と支援  第2節 介護実践における連携  第3節 介護における安全の確保とリスクマネジメント  第4節 介護従事者の安全	「その人らしさ」を理解し、それを支える介護サービスについて理解する。高齢者・障害のある人の暮らしと支援の実際について学ぶ。介護を必要とする人の生活環境を理解する。  多職種連携の意義と目的、チームメンバーとしての介護職のあり方、多職種連携の実際等について整理し理解する。地域連携の意義と目的、地域連携の形やかかわる機関について整理する。  様々な場面での事故防止と安全対策について学ぶ。 感染対策の原則等について学ぶ。  介護職の健康管理の意義と目的を理解し、健康管理に必要な知識と技術を学ぶ。 安心して働ける環境を作るための法律について学ぶ。
6. コミュニケーション技術（20h スクーリング）	
第2巻「介護Ⅰ—介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術—」（20h） 第3章 コミュニケーション技術 第1節 介護におけるコミュニケーション  第2節 介護におけるコミュニケーション技術  第3節 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション  第4節 介護におけるチームのコミュニケーション	コミュニケーションの意義、目的、役割、コミュニケーションの技法について学ぶ。  話を聴く技法、利用者の感情表現を察する技法、利用者の納得と同意を得る技法、質問の技法、相談・助言・指導の技法、利用者の意欲を引き出す技法、利用者と家族の意向を調整する技法等について学ぶ。  コミュニケーション障害について理解したうえで、高次脳機能障害、失語症、構音障害、認知症等に応じたコミュニケーション技術について事例等も参考にしながら学び理解する。  チームマネジメントの意義、目的と、チームのコミュニケーションの目的、方法について学ぶ。介護の現場で重要な記録の情報の共有化、記録の意義と目的、記録の種類、記録の書き方、実際の記録の例等を分析しながら学ぶ。記録の保護管理の重要性及び公表制度について学ぶ。報告、連絡、相談、会議の意義と目的、方法と留意点などについて学ぶ。

7. 生活支援技術Ⅰ（20h 通信）	
第2巻「介護Ⅰ—介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術—」（20h） 第4章 自立に向けた生活支援技術の基本 第1節 生活支援とICF	介護職が行う生活支援とは何かを理解する。 介護職としてICFの視点と生活支援におけるアセスメントの視点について整理し理解する。
第2節 居住環境の整備と福祉用具の活用	居住環境の意義、生活空間と介護、福祉空間の活用について整理し、生活の中で福祉用具も活用して居住環境を整える重要性や方法について学ぶ。
第3節 移動・移乗の生活支援技術の基本	ボディメカニクスの基本原理を学び、それを活用した体位変換や、車いすの基本構造を理解したうえで車いすの介助、歩行の介助等の方法を学ぶ。
第4節 食事の生活支援技術の基本	利用者の状態に応じた食事の介助方法等を学ぶ。
第5節 入浴・清潔保持の生活支援技術の基本	利用者の状態に応じた入浴・部分浴・清潔保持の介助の方法について学ぶ。 各介助を行うにあたっての配慮や留意する点等について理解する
第6節 排泄の介護技術の基本	利用者の状態に応じた排泄の介助の方法等を学ぶ。
第7節 着脱、整容、口腔清潔の介護技術の基本	利用者の状態に応じた着脱・整容・口腔清拭の介助の方法を学ぶ。
第8節 家事援助の基本	生活と家事について理解し、調理、洗濯、掃除、ゴミ捨て、衣服の補修・裁縫、衣類・寝具衛生管理、買い物等についての介助、援助の基本について学ぶ。
8. 生活支援技術Ⅱ（30h スクーリング 実技）	
第2巻「介護Ⅰ—介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術—」（30h） 第5章 利用者の心身の状態に応じた生活支援技術 第1節 環境整備と福祉用具等の活用	利用者に適した生活環境の整備や福祉用具について学ぶ。
第2節 移動・移乗の生活支援技術	体位変換の介助、車いす介助、安楽な体位の保持と褥瘡の予防、歩行の介助、移動・移乗に関する福祉用具と活用方法について学ぶ。
第3節 食事の生活支援技術	食事の介助、食事に関する福祉用具とその活用方法、誤嚥・窒息の予防、脱水の予防について学ぶ。
第4節 入浴・清潔保持の生活支援技術	入浴の介助、入浴に関する福祉用具とその活用方法について学ぶ。
第5節 排泄の生活支援技術	排泄の介助、排泄に関する福祉用具とその活用方法、頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁への対応、ストーマ等の介助を学ぶ。
第6節 着脱、整容、口腔清潔の生活支援技術	衣服着脱の介助、整容の介助、口腔清拭の介助について学ぶ。
第7節 休息・睡眠の生活支援技術	睡眠の必要性や睡眠のしくみ、睡眠の種類等について学ぶ。睡眠の介助や睡眠に関する用具とその活用方法等について学ぶ。睡眠と薬について学ぶ。
第8節 人生の最終段階における介護の生活支援技術	終末期の理解を深め、終末期の介護について学ぶ。介護職、家族への支援について理解する。

9. 介護過程Ⅰ（20h 通信）	
第3巻「介護Ⅱ—介護過程Ⅰ」（20h） 第1章 介護過程の基礎的理解 第1節 介護過程の意義と目的 第2節 介護過程の展開 第3節 介護過程とチームアプローチ	介護の概念を理解し、根拠に基づいた介護を実践すること、介護過程の必要性を理解する。  アセスメント、計画の立案、実施、評価といった介護過程の展開のプロセスを学ぶ。  介護過程とケアマネジメントの関係性を理解し学ぶ。介護過程とチームアプローチについて、チームにおける介護職の役割について、専門職間の連携等について学ぶ。
10. 介護課程Ⅱ（25h 通信）	
第3巻「介護Ⅱ—介護過程Ⅰ」（25h） 第2章 介護過程の展開の実際 第1節 介護職による介護過程の進め方 第2節 介護過程の実践的展開 第3節 施設で暮らす高齢者の介護過程 第4節 在宅で暮らす高齢者の介護過程	それぞれの事例を用いて「アセスメント」→「計画の立案」→「実施」→「評価」という介護過程の実践的展開について学ぶ。 テキストに掲載されている事例を読み解き追体験することで、利用者に適切な援助を実施できるような思考過程のトレーニングを行う。  事例1：施設で暮らす高齢者の介護過程 事例2：在宅で暮らす高齢者の介護過程
11. 介護課程Ⅲ（45h スクーリング+実技）	
第3巻「介護Ⅱ—介護過程Ⅰ」（45h） 第3章 介護過程の展開の実践 利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開  〔事例1〕片麻痺のある高齢者の夢の実現に向けた支援 〔事例2〕在宅で終末期を迎える高齢者と家族の生活支援 〔事例3〕都会に住む一人暮らしの高齢者の生活支援 〔事例4〕介護老人保健施設で生活する利用者への支援	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開  1. 利用者の様々な特性にあった介護を提供することを前提に、テキストの事例を用いて介護過程の実践的展開について学ぶ。  事例1：施設で暮らす高齢者の介護過程 事例2：在宅で暮らす高齢者の介護過程  2. 状況に応じてセンター独自の事例も使用し、学びを深める。  3. 介護過程を踏まえた介護技術について、複数の事例に基づいた実技演習を行う。  4. 修了評価試験（成果物作成）を実施する。  5. 介護技術の実技評価試験を実施する。
12. こころとからだのしくみⅠ（20h 通信）	
第4巻「こころとからだのしくみ」（20h） 第1章 介護に関連するからだのしくみ 第1節 移動・移乗に関連するからだのしくみ 第2節 食事に関連するからだのしくみ 第3節 入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ 第4節 排泄に関連するからだのしくみ 第5節 着脱、整容、口腔清拭に関連するからだのしくみ 第6節 休息・睡眠に関連するからだのしくみ	なぜ移動するのか理由を理解し、基本姿勢の名称や移動に関連したからだのしくみを学ぶ。  なぜ食事をするのか理由を理解し、食べることに関する口腔内のしくみや摂食や嚥下について学ぶ。経管栄養法等の代償的な栄養摂取法について学ぶ。  なぜ入浴・清潔の保持を行うのか理由を理解し、基本的なからだのしくみ（皮膚・汗・汚れ等）について学ぶ。  なぜ排泄するのか理由を理解し基本的なからだのしくみについて学ぶ。 人口膀胱や人工肛門について学ぶ。  なぜ身じたくを整えるのか理由を理解し、爪、口腔、歯、舌の構造やはたらきについて学ぶ。  なぜ休息・睡眠するのか理由を理解し、基本的なからだのしくみについて学ぶ。



13. こころとからだのしくみⅡ (60h 通信)	
第4巻「こころとからだのしくみ」(60h) 第2章 心身の構造・機能と介護における観察のポイント 第1節 人間の心理 第2節 人体の構造と機能 第3節 移乗・移動における観察のポイント 第4節 食事における観察のポイント 第5節 入浴・清潔保持における観察のポイント 第6節 排泄における観察のポイント 第7節 着脱、整容、口腔清拭における観察のポイント 第8節 休息・睡眠における観察のポイント 第9節 人生の最終段階のケアにおける観察のポイント	人間の欲求の基本的理解、こころのしくみの基礎について学ぶ。 生命の維持・向上のしくみ、体温、呼吸、脈拍、血圧の基礎について学ぶ。 人間のからだのしくみについて、身体各部の名称やはたらきを学ぶ。 骨格、関節、筋肉、神経、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、皮膚感覚、呼吸器、消化器等の構造や役割等について学ぶ。 移動・移乗を阻害する要因を理解し、利用者の変化に気づくための観察のポイントと、医療職との連携のポイントについて学ぶ。 食事を阻害する要因を理解し、利用者の変化に気づくための観察のポイント、誤嚥や窒息等緊急性をともなう異常な状態について学ぶ。 医療職との連携のポイントについて学ぶ。 入浴・清潔保持を阻害する要因を理解し、利用者の変化に気づくための観察のポイント等について学ぶ。 医療職との連携のポイントについては、いくつかのケース毎の対応等について、具体的に学ぶ。 排泄を阻害する要因を理解し、利用者の変化に気づくための観察のポイントと、医療職との連携のポイントについて学ぶ。 身支度を阻害する要因を理解し、利用者の変化に気づくための観察のポイントと、医療職との連携のポイントについて学ぶ。 休息・睡眠を阻害する要因を理解し、利用者の変化に気づくための観察のポイントと、医療職との連携のポイントについて学ぶ。 終末期の理解、終末期から危篤状態の変化の特徴と対応、死後の対応、医療職との連携のポイントについて学ぶ。
14. 発達と老化の理解Ⅰ (10h スクーリング)	
第4巻「こころとからだのしくみ」(10h) 第3章 老化に伴うこころとからだの変化 第1節 こころの変化と日常生活への影響 第2節 からだの変化と日常生活への影響	老化による心理や行動を理解するための視点について学ぶ。 老化による身体的機能の変化と心理的影響について学ぶ。 老化による社会的環境の変化と心理的影響について学ぶ。 自己概念の視点、生きがいとQOLの視点について整理し学ぶ。 加齢に伴う身体機能の変化と日常生活への影響について理解する。 加齢に伴う様々な機能の変化について学ぶ。
15. 発達と老化の理解Ⅱ (20h 通信)	
第4巻「こころとからだのしくみ」(20h) 第4章 老年期の発達、成熟と健康 第1節 人間の成長・発達 第2節 老年期の発達・成熟と心理 第3節 高齢者に多くみられる症状・疾病等	発達の定義、発達段階と発達課題について学ぶ。 要介護状態と高齢者の心理、不適応状態を緩和する心理、施設への入所、入居による環境の変化と心理について学ぶ。 高齢者に多くみられる症状・訴えとその留意点について学ぶ。介護を要する高齢者によく見られる病気・病態について学ぶ。

16. 認知症の理解Ⅰ (10h スクーリング)	
第4巻「こころとからだのしくみ」(10h) 第5章 認知症の基礎的理解 第1節 認知症ケアの理念と視点  第2節 認知症による生活障害、心理・行動の特徴  第3節 認知症の人や家族とのかかわり・支援の基本	認知症ケアを取り巻く状況を理解し、その人らしくあり続けるための支援を実現するために、認知症ケアの理念と視点を学ぶ。  認知症の「人」と「生活」を支えるケアを提供するために、認知症の中核症状と、行動・心理症状(BPSD)、意識障害、生活障害について基本を学び理解する。  認知症の人にかかわる際の前提、実際のかかわり方の基本について、事例を通して学ぶ。
17. 認知症の理解Ⅱ (20h スクーリング)	
第4巻「こころとからだのしくみ」(20h) 第5章 認知症の医学的理解と支援の実際 第1節 医学的側面から見た認知症の理解  第2節 認知症の人への支援の実際	脳の構造やしくみについて理解し、老化による脳の変化を理解する。 認知症とは何かを学び理解する。 認知症の診断について学ぶ。 認知症の原因疾患と治療、認知症の治療と予防について学ぶ。  中核症状や行動・心理症状(BPSD)へのかかわり方の実際や環境整備の必要性について学ぶ。 認知症ケアにおける、チームアプローチについて理解する。 ユマニチュード等、認知症の人へのさまざまなアプローチについて学び理解する。 認知症の人や家族を支えるため、地域を基盤とするサポート体制等を学ぶ。
18. 障害の理解Ⅰ (10h 通信)	
第4巻「こころとからだのしくみ」(10h) 第7章 障害の基礎的理解 第1節 障害者福祉の理念  第2節 障害による生活障害、心理・行動の特徴  第3節 障害のある人や家族へのかかわり・支援の基本	「障害」のとらえ方を学ぶ。 「国際障害分類(ICIDH)」と「国際生活機能分類(ICF)」を理解し、「障害」に対する考え方を整理する。 ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン、エンパワメントの意義や理念等を理解する。  身体障害による生活上の障害(視覚障害、聴覚・言語障害、肢体不自由、内部障害などに分類)による生活上の障害と心理・行動の特徴について学ぶ。 知的障害による生活上の障害と心理・行動の特徴について学ぶ。 精神障害による生活上の障害と心理・行動の特徴について学ぶ。 難病による生活上の障害と心理・行動の特徴について学ぶ。  家族の理解と障害の受容支援について学ぶ。介護負担の軽減について学ぶ。
19. 障害の理解Ⅱ (20h 通信)	
第4巻「こころとからだのしくみ」(20h) 第8章 障害の医学的理解と支援の実際 第1節 医学的側面からみた障害の理解  第2節 障害の特性に応じた支援の実際	視覚障害、聴覚・言語障害、運動機能障害、心臓機能障害、腎機能障害、呼吸機能障害、膀胱・直腸機能障害、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害、肝機能障害、知的障害、精神障害、発達障害、難病について、それぞれの基礎的知識や障害の原因・特性・変化などについて学ぶ。  アセスメントの視点と個別支援について学ぶ。 地域におけるサポート体制について学ぶ。

20. 医療的ケア（50h以上 スクーリング）	
<p>第5巻「医療的ケア」（50h）</p> <p>第1章 医療的ケア実施の基礎</p> <p>第1節 医療的ケア</p> <p>第2節 安全な療養生活</p> <p>第3節 清潔保持と感染予防</p> <p>第4節 健康状態の把握</p> <p>第2章 喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）</p> <p>第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論</p> <p>第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説</p> <p>第3章 経管栄養（基礎的知識・実施手順）</p> <p>第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論</p> <p>第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説</p> <p>第4章 演習</p> <p>第1節 喀痰吸引のケア実施の手引き</p> <p>第2節 経管栄養のケア実施の手引き</p> <p>第3節 救急蘇生法の手引き</p>	<p>医療的ケアを行うための介護職員の倫理観や自立支援の働きかけ、医療の倫理、関係する制度や法律、これから学ぶ行為の安全な実施、救急蘇生、感染予防、バイタルチェックなどの総論を学ぶ。</p> <p>呼吸のしくみを学び、喀痰吸引の必要な症状、喀痰吸引の処置を行うにあたっての基礎的な知識や技術を学ぶ。それに基づいて、喀痰吸引実施手順を理解し、介護職員等によるケアを実施するときの手順を確認する。</p> <p>消化器系のしくみを学び、経管栄養の必要な症状、経管栄養の処置を行うにあたっての基礎的な知識や技術を学ぶ。それに基づいて、経管栄養実施手順を理解し、介護職員等によるケアを実施するときの手順を確認する。</p> <p>救急蘇生法について学ぶ</p> <p>※演習については、次の回数を実施すること。</p> <p>たんの吸引 口腔・・・・・・・・・・5回以上  鼻 腔・・・・・・・・・・5回以上  気管カニューレ内部・・・・5回以上</p> <p>経管栄養 胃ろう又は腸ろう・・・・5回以上  経鼻経管栄養・・・・・・・・5回以上</p> <p>救急蘇生法演習（1回以上）も必要。</p>
合 計	450時間

## 実践講習(65時間)

科目名	具体的な内容	時間数
介護職員の接遇・マナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>信頼関係を築くための基本的態度</li> <li>介護職に必要な礼節と心得</li> <li>演習(挨拶、言葉遣いと話し方)</li> </ul>	3時間
介護職員の自覚と健康管理 (※オンライン設定科目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護職員としての基本的心得と職業理解</li> <li>自己認識(自己覚知)</li> <li>健康管理とストレスマネジメント</li> </ul>	3時間
レクリエーション技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉レクリエーションとは</li> <li>プログラム作成と展開</li> </ul>	3時間
調理技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者、障害者に必要な栄養素と働き</li> <li>栄養所要量</li> <li>調理方法と基本的な考え方</li> </ul>	3時間
医学関連の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>人体の仕組みと働き</li> <li>加齢の生理学</li> <li>高齢者の身体的</li> <li>精神的特徴と疾病</li> <li>健康チェックとバイタルサイン</li> <li>主な症状、訴え、疾病、病態など</li> <li>薬の基礎知識</li> </ul>	9時間
社会保障制度の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会保障制度の理解</li> <li>介護保険制度の理解</li> <li>介護実践に関連する諸制度の理解</li> </ul>	10時間
介護過程の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程の意義と目的</li> <li>介護過程の具体的な展開</li> <li>介護過程とチームアプローチ</li> <li>演習(事例から介護過程の展開を学ぶ)</li> </ul>	6時間
生活支援技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援とICF</li> <li>居住環境の整備と福祉用具の活用</li> <li>家事援助の基本</li> </ul>	12時間
障害者支援技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害者福祉の理念</li> <li>障害による生活上の障害、心理・行動の特徴</li> <li>障害児・者や家族へのかかわり、支援</li> <li>医学的側面からみた障害の理解</li> </ul>	6時間
総合理解(復習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護技術の復習</li> <li>介護過程の展開の復習</li> <li>医療的ケア(演習)の練習と復習</li> <li>介護保険制度の復習</li> <li>医学関連の基礎知識の復習</li> </ul>	10時間
	合計	65時間

## 就職支援(25時間)

支援内容	詳細	時間数
施設見学	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等の施設を見学</li> </ul>	3時間
介護職員のキャリア形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>実務者研修修了後のキャリアパス</li> <li>介護福祉士国家試験に向けて</li> <li>これからの介護人材育成スキーム</li> </ul>	2時間
修了生の就職講話	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護職で働いて感じること</li> <li>介護現場で必要なこと、学んだこと</li> <li>就職活動をする上での注意点</li> </ul>	2時間
事業主の職業講話	<ul style="list-style-type: none"> <li>採用側から望まれる人材</li> <li>介護職としての心構え</li> <li>採用側から見た面接とは</li> </ul>	2時間
就職ガイダンス 及び就職面接会(面接)等	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護職の求人状況、有効求人倍率</li> <li>履歴書、職務経歴書の書き方</li> <li>望まれる介護職</li> <li>模擬面接等</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護事業所及び施設の就職面談会(HWの協力・連携のもと実施)</li> <li>希望する就職先、マッチング</li> <li>介護能力開発アドバイザーによる受講者個別の就職支援等</li> </ul>	10時間
介護現場実習<事前演習> ※現場実習前	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習目的、目標の設定意義</li> <li>実習中の態度、心構え</li> <li>事故防止のための留意点</li> <li>実習記録の方法</li> <li>実習先(施設、事業所)の特徴や概要</li> <li>実習日程の説明</li> </ul>	3時間
介護現場実習<事後演習> ※現場実習終了後	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習での経験内容、気づき、反省点、自己の介護観まとめ、達成状況確認</li> <li>介護職員として今後の在り方</li> <li>演習(発表、グループワーク、検討等)</li> </ul>	3時間
	合計	25時間

## 介護現場実習(30時間)

	日数	時間数
施設、訪問、デイサービス等	・5日間	30時間

## 介護現場実習 補足講習(30時間)

支援内容	詳細	時間数
安全衛生の実際 (※オンライン設定科目)	実際の介護現場での事故やけが、介護職員の健康管理や腰痛予防等について等を事例にて学ぶ。	3時間
レクリエーション演習	現場実習の際に、受講者が実習する可能性のあるレクリエーションについて体験し、自らも考え発表する。	6時間
介護現場の実際① (※オンライン設定科目)	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)や介護老人保健施設の実際について、施設の担当者等から、自施設の説明を受けて学ぶ。	3時間
介護現場の実際② (※オンライン設定科目)	訪問介護(ホームヘルパー)の実際について、事業所の担当者等から、自事業所の説明を受けて学ぶ。	3時間
介護現場の実際③ (※オンライン設定科目)	通所介護事業所(デイサービス、デイケア)等の実際について、事業所の担当者から、自施設の説明を受けて学ぶ。	3時間
介護現場の実際④ (※オンライン設定科目)	小規模多機能、グループホーム、有料老人ホーム(介護付き)の実際について、事業所の担当者から、自施設の説明を受けて学ぶ。	3時間
サービス提供責任者とは (※オンライン設定科目)	実務者研修修了者はサービス提供責任者になれることから、実際にサービス提供責任者の事務について説明を受けて学ぶ。	3時間
介護技術の復習	就職に向けて、特に重要な介護技術について、演習科目で学習した内容等を復習し、技術の強化・定着を図る	6時間
	合計	30時間